

花咲かだより

題字 ○ ○○さん

社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム 山科苑

デイサービスセンター 山科苑

居宅介護支援センター 山科苑

京都市山科区大塚野溝町3番地

TEL (075) 593-0800

ryokuju@agate.plala.or.jp

<http://www3.plala.or.jp/ryokuju/>



ちぎり絵 ○○ ○○さん

ご挨拶

施設長 吉澤 英樹

初夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より当法人運営にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ようやく気候も暖かくなっていくのかと思っております、暑かったり寒かったりで、なんとも妙な気候となっておりますが、皆様、健康にご留意ください。

私事です、先日、京都に住んで40年にして初めて「保津川下り」に乗ってまいりました。最初は、急流すべりのように怖いものと思っておりましたが乗ってみると非常に楽しく、また船頭さん(20代の方でしたが)のしゃべりも大変面白く、穏やかで時には急流な1時間30分の船旅でした。周りの景色を見る事で心が癒されるマイナスイオンいっぱいのある心地の良い体験でした。船頭さんのイメージは、そこそこ年配の方がされているイメージでしたが、私が乗りました船は年配の方が1名、若手が2名の計3名でした。船頭さんの成り手が無いのかと思いきや、若手の方がたくさんおられました。ベテランさんから若手へと徐々に引き継がれていくのだなと感じました。保津川下りでは最後尾の舵取りが一番のキーとなるそうです「特に急流部分を下るとき」、一人前にできるまで十年かかるというお話でした。彼ら(若手)のTシャツの後ろに書かれた『船十魂』という文字が印象的であったのと同時に熱いものを感じました。

新しい事業年度を迎え、当施設の本年度の取組についてご報告させていただきます。

○法人と致しましては、「人を 人が 人として」の法人理念の下、ご利用者の尊厳を守り、皆様に最良の福祉サービスを提供し続けることが使命と考えます。

また、ご利用者のニーズに応えるべく、個別ケアの取組を強化し山科苑・日ノ岡に「来て良かった」と思っていただけ施設作りを目指します。

ハード面においては、前回もお知らせしましたが現在2階にて運営しておりますデイサービスセンターを1階へ移転いたします。移転の為の準備として1階において増築工事及び改修工事を行います。工事期間中はご利用者の皆様、ご家族様には大変ご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解ご協力のほどを宜しくお願いしたいと思います。

○特養「山科苑」では、ご利用者の『生活』に焦点を合わせ、ご利用者ニーズの視点・専門職としての視点から、それぞれの職種が協働して、ご利用者にとって居心地の良い施設作りに取り組みたいと考えます。

重点的な取組としては以下の6点

①「楽しい日々を創る」

昨年度に引き続き、利用者の日々の過ごし方に着目し、行事やレクリエーションに限らずいかなる時もその人らしい生きがいを持った「楽しい日々」を創ります。

②「居心地の良い住環境を創る」

利用者体験や他施設研修等を通して、認知症や障害を持つご利用者が安心して居心地のよい生活を送っていただけるよう衣食住をはじめ生活環境の改善、向上を図ります。

③「多様な認知症高齢者にも即応したフロアケアの確立」

認知症高齢者にとっても居心地の良い生活が可能な施設を目指し、パーソンセンタードケアを基礎とした多様な認知症症状にも応じたフロア独自の認知症ケアの確立を図ります。

④「ケアプランルーティンの確立と記録の連動」

他職種との連携を図り、ご利用者にもご家族にも納得して実感できるケアプランルーティンの確立を目指します。特に今年度はご家族参加型のカンファレンスの実施や理学療法士、作業療法士等の意見聴取、他職種参加の介護計画立案を図ります。また、立案された計画に対して目標に応じた記録とモニタリングを行い、適正な時期でのプランの見直し、再アセスメント策定を行えるようにします。

⑤「各部署間の相互連携」

多様なご利用者のニーズに応じて、介護職員が中心となり看護職員および管理栄養士、生活相談員がそれぞれの専門性を発揮しながらご利用者本位のサービスを展開します。

⑥「研修委員会を中心とした研修計画の実施」

全職員の接遇および介護技術の向上にむけて、研修委員会が中心となり職員個々の重点目標に即した研修を組織的に展開します。

○デイサービスセンター「山科苑」では、今年度はデイサービスのフロアを2階から1階へ移動する計画の為、新たな環境でのスタートの年となります。よりご利用者の皆様に満足していただけるためのサービスの向上に努めるべく、昨年度に引き続き個別のレクリエーションの充実を図り、ご利用者の満足度、ADLの向上に努めたいと考えます。また、個別のレクリエーションに参加できないご利用者を対象に潜在能力の発掘・向上にも努めたいと考えます。

また、昨年より実施しております委員会・プロジェクトの更なる成果の向上を目指し取組強化を図ります。

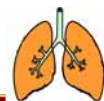
○居宅介護支援センター「山科苑」では、法人内の居宅介護支援センター職員および地域包括支援センター職員を対象とした法人内研修において、制度説明や事例検討を行いケアプランの質の向上を図ると同時に、新たな課題に対して定期対策を立て、課題と目標を共有していきます。また、処遇困難ケースや苦情申出のあったケースについてケアマネジャー単独で抱え込まないような運営に努めていきたいと考えます。

DS

デイサービスセンター

もうご存知の方も多いと思いますが、口腔内の不衛生はさまざまな病気に関係しています。

- 肺炎：歯周病の細菌が気管に入り肺炎を起します。
- 心臓病：血管に移行し心臓の血管に炎症を引き起こします。
- その他、糖尿病、脳血管障害などなど・・・。



口腔内をきれいにすると！

- 口腔内の不衛生が招く病気の予防
- 口臭予防（他の人と会話が進む）
- 味覚の改善（食事が楽しくなる）

認知症の予防にも繋がる！

現在DSでは、口腔ケアの一環として実施してまだ半年くらいですが、それま全体の20%程度だったのが、今では



で歯磨きを奨励しています。で昼食後に歯磨きされるご利用者は70%に迫る勢いです。

そして意外な事に、歯磨きの声かけに対して拒否される方はおられませんでした。ご利用者からは

「家では邪魔くさくてしなかったけど、デイにきて職員に声をかけてもらってするようになった」「しないとスカみたい」「歯磨きして気持ちがいい」「声をかけてもらって嬉しい」などなどです。



月に2週間行っている選択レクの二つに、手エクラブがあります。当クラブで半年前から制作に取り組んでいる「広告で作る籠」が、いよいよ完成に近づいています。中盤難しい工程もありましたが、ラストスパートで頑張っておられます。完成したら、デイに展示して、その後持ち帰っていただきます。楽しみにしてくださいねっ。



手エクラブ
作品完成間近！





生きがいプロジェクト



料理クラブ

京都大学作業療法の白井先生とビーフシチューと一緒に作りました。料理クラブのメンバーの中には認知症の影響からその時の記憶を思い出すが困難な方がいます。そんなご利用者がふと、「あのときのシチューまた作りたいな」と記憶がよみがえることがあり、好きなことに取り組むとその障害をも乗り越えられることを改めて感じました。写真は白井先生と学生さんと一緒にちらし寿司を作っています。



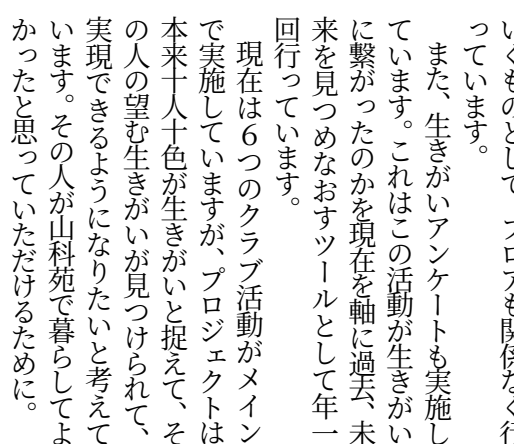
書道クラブ

好きで集まったクラブなので、筆と墨があれば他に言葉は要らないといった静かな雰囲気です。久しぶりに筆を持つと思うように筆が動かないようで、何度も何度も書き直し、自分が納得するまで半紙に向かう。そんな姿を見て、書道とはただ字を綺麗に書くことだけではなく、自分と向き合うことができる、そんな時間でもあるのかなと感じます。



華道クラブ

こちらは先生のお手本をみて生け花をしています。華道クラブは、どちらかというときにぎやかに。実習生なども一緒に花の名前を覚えていたりして月1回楽しく活動しています。できた作品はフロアに飾ってみんなで作品展を行っています。面会や外部から来られる方から「ほんとにご利用者がされたのですか?きれいにできていますね」と感想がよく聞かれます。



生きがいプロジェクト



以前にも一度紹介しましたが、昨年度から山科苑では生きがいプロジェクトを発足させ様々な取り組みをしています。

現在生きがいプロジェクトは料理クラブ、華道クラブ、書道クラブ、カラオケクラブ、歌声サークル、般若心経の会の6つのクラブ活動で構成されています。クラブ活動はその活動を単発的に行うものではなく、次に続いていくものとして、フロアも関係なく行っています。

また、生きがいアンケートも実施しています。これはこの活動が生きがいにつながったのかを現在を軸に過去、未来を見つめなおすツールとして年一回行っています。

現在は6つのクラブ活動がメインで実施していますが、プロジェクトは本来十人十色が生きがいと捉えて、その人の望む生きがいが見つけられて、実現できるようにしたいと考えています。その人が山科苑で暮らしてよかったと思ってくれたらいいと思います。

花見は会話にも花が咲く



一燈園



京都府立植物園



大

石神社、一燈園、山科毘沙門堂、京都府立植物園、山科苑周辺と今年も桜の花を見に行っています。花より団子といいますが写真をみていただければどちらが優るかはわかっていただけたはず? 植物園にはわらびの里の花見弁当を持参し、しだれ桜のもと食事会を開きました。やっとなくなって外出することができるようになって来ました。恒例の行事も行き先が変わればまた楽しいと。「あそこが桜がきれい」「あそこが茶店が美味しい」と昔行った桜名所。花見は会話にも花が咲きます。



毘沙門堂



大石神社

食事から見えてくる



山科苑は食事の記事が多い。そんな声が聞こえてきそうですが、またまた食事の記事です。今度は給食委員会が企画した「パンバイキング」です。山科苑には色々な委員会があります。この委員会は日々の食事はもちろんですが、イベント企画などを行い食事を通して、ご利用者の生活を豊かにすることを目的としています。今回のパンバイキング、ただ単にパンの食べ放題ではなく、ご利用者とスタッフが一緒に食事を楽しむという趣旨で行っています。好きなものを選ぶ、それをお互いに共有することで、また新たな一面に気づけることもあるようです。「〇〇さんいつも朝食ご飯で残すけど、この間のパンバイキングで菓子パンなら沢山食べれたみたい」(スタッフ談)



みんなで楽しく過ごしたい



山科苑はご利用者50人のうち46人は女性です。そんな中でのひな祭りですが、意外と行事として大きくは行っていないんです。生活の中で雛壇の飾りつけを行ったり、「今日は桃の節句ですね」「今日はひな祭りメニューです」などの会話やちょっとしたレクリエーションを行ったり、おやつに雛あられを食べたりぐらいいました。行事委員会の担当者はせっかくのひな祭りをみんなで楽しく過ごしたいとの思いから企画をたてました。題して「みんなで花を咲かせよう!」です。フロアでご利用者に、桃の木をちぎり絵で作ってもらい、当日はご自身で作った花を貼って咲かせて頂く。そして、その花を見ながら記念写真を撮る。そんな姿を見ながら、お茶をするというものです。桃の花を作る最中は薄紙の花ひとつひとつにも、作った方の個性が現れます。「こんな感じでええやろか」「いや、きれいにしたいね、私ももうちょっとがんばろ。」細かい作業に、雛あられを食べるのを忘れてつい熱中。かわいい花を咲かせた後はお雛様の前でじっくり記念写真。初めての企画でしたが参加者は、最後まで帰ることもなくにぎやかに続けました。担当者もこんなに盛り上がると思わなかったと驚き、また新たな企画に意欲が増したようです。

文 多岐 ゆみこ

美味しいもの話



よくご利用者の会話の中で聞かれるのは「美味しいものが食べたいなあ」という内容です。美味しいもの話しが好きなのはご利用者もスタッフも同じです。「何が食べたいですか?」思わず好奇心から聞いてしまいます。「そらあ、お寿司やで!」「やっぱりにぎりお寿司やなあ」。「そらあ…」に答えるべく、日ごろからお世話になっている富士産業より寿司職人を出張してもらうことに。目の前で板さんか注文も聞いてにぎってくれる本格にぎり寿司。見事な手さばきと愉快的トークで心もお腹も満腹に。

ナースのお仕事を ちょっぴり紹介! 医務室 だより



施設での処置見学



実習後のカンファレンス

医

務室では看護学生の見学、実習の受け入れをしています。今年も4月に京都橘大学看護学科3回生15名の方が来られました。介護福祉施設における役割、病院と施設の違いなどについて説明、私たちも初心に戻り、今一度看護師としての専門性、ホームでの医療のあり方について考え直すきっかけとなりました。私たちが日常的に行っている業務の中にも、多くの疑問を抱く学生の皆さんと質疑応答の時間を設けています。老年看護について、施設におけるケアとキューアについて、医務室としての取り組みについて話し合い大変貴重な時間となりました。私たち施設看護師は、ご利用者の生活が安全に、かつ快適なものである為に、常に他職種と連携をとり情報を交換し、良い関係を築くことが大切だと考えていることを学生へ伝えています。

文 看護師 中西 博美

学生の感想

- ・特養って暗いイメージがあり寝たきりの人がほとんどだと思っていたが元気な人が多いのでびっくりした。
- ・ベッドの周囲も一人一人によって違い、こだわりの家具などもあり明るく家にいる様な感じにであった。
- ・スタッフの人たちが仲良く皆な笑顔で仕事をしていた。
- ・ご利用者の方とゆっくり話をしたり、一緒にレクリエーションをしたりされていた。
- ・病院では処置などで忙しく患者さんとあまりコミュニケーションが取られていない様に思う。

21年度取り組み発表内容

□2階フロア

必要な時に援助ができる。環境としての職員の勤務体制として、施設の職員体制に利用者の生活をはめるのではなく、個別のライフスタイルに柔軟に対応した取り組みについて発表。

□3階フロア

ターミナルケアでの家族参加型カンファレンスの必要性。デスカンファレンスにて、これで本当よかったのか、それぞれの思いや考えを確認し、深めたことを次のケアへつなげる取り組みについての発表。

□デイサービス

排泄・食事・入浴・歩行委員・手工・絵手紙の6つについて、“極める”というテーマでの取り組み発表。



毎

年4月の新年度になると、法人全体の研修会が開催されます。

この全体研修は特養2階フロア、3階フロア、山科苑デイサービス、日ノ岡地域包括支援センターが毎年その年度で重点的に取り組んだことを法人全職員の前で発表します。全体での発表を行うことで、各部署は一年の取り組みの整理ができ、次年度への課題が見えてきます。また、発表者はどうすれば人に伝えることができるかを考えるいい機会になっています。



法人全体研修

居宅介護支援センターだより



対人援助という私たちの仕事は、ご利用者やそのご家族をはじめとして常にも人と人とのかわりの中で進んでいきます。その方らしい生活を送っていただけるよう、お体の機能の維持・向上や介護負担軽減を図るための方法のひとつとして、介護保険のサービス等社会資源を活用することになるのですが、社会資源を提供するのは人であり受けるのもまた人です。当然ながら、そこにはご利用者自身及びご家族との間にこれまで長年築いてこられた家族関係の歴史、価値観等など、それらを含んださまざまな感情が介在しています。それゆえ援助者とのコミュニケーションの結果によってはスムーズに運んだり、運ばなかったりということが起こります。自分自身を振り返ると、スムーズにいかなかった時というのはたいてい、自身の思いが先行しご利用者の気持ちや思いを置きざりにしてしまった時が多いような気がします。

私が山科苑に就職する時に尋ねられたことは「仕事をするうえで、何を大事にしているか？」でした。その時に答えたのが「ご利用者の本当のニーズを大事にすること」。それは今も変わらず大事にしていることなのですが、本当に難しい。こちら側からみれば確かに必要と思えているけれど、今、それを必要としておられるのか？そもそもそれを望んでおられるのか？単なるおせっかいになっているのでは？常に自問自答している日々です。

文・介護支援専門員 中村 里美

対人援助という仕事

“ 思 案 想 論 ” 副施設長より

最近是人前で楽器を演奏することからは遠のきましたが、いつにおいても演奏する時は非常に緊張します。そして緊張のあまりに失敗しがちです。失敗する所は決まって普段は何気なく弾けていた所です。そのために失敗しそうなところは必死になって練習をして自分のものにしようとしています。ところが上手く弾けてほっとした時ほど逆に何気ない所を失敗してパニックに陥ります。そのような心理状況を語ると、“緊張する”とは相手が私をどのように見ているかを意識するあまりに起こる心の変容です。意識は相手に向かっていると一瞬思われますが、現象学的に記述するならば、実は私の意識の志向性は相手に向かっているのではなく、相手が私に意識が向かっているだろうと思っている当の私自身に意識が向いているのです。つまり。意識の焦点は相手でなく自分自身に向かっていることであり、相手の存在をしっかりと掴みきれていないで独りよがりの世界に埋没していることを意味します。



プロの演奏家も同じように人前で演奏する時はやはり緊張されるようですが、我々素人と違って緊張することいい演奏ができるそうです。聴衆を前にして緊張した世界の中においてこそ本当の自分が開かれ、自己を表出することができるのだともいえます。確かにただ単に弾いた曲は無味乾燥で巧いという印象を超えません。相手を想い全霊を傾けて自己の想いを曲に浸透して表出された演奏に対しては、その人の世界との在り方や意志に向き合うことができ、アートとして感動すら覚えます。

改めて、アート(Art)とは道具や身体などを使って自らの意志を作品化する活動です。そこには常に観られるべき他者を必要とします。対人援助関係も前号で述べたように援助者とクライアントとの専門的な対人援助関係を駆使して自らの抱える課題や問題に向き合い、乗り越えていくことを創造的に支え続けることといえます。そのように考えるなら、援助者の在り方はナラティブアプローチではないですが「援助者とは援助者としてあるのではなく常にクライアントの存在を前提にして関わる過程であり、更新(自己成長)され続ける」ということです。鷲田清一氏は「わたし」は「他者の他者」である(『死なないでいる理由』P19)と語る。自己は自己により成立するのではなく常に他者を必要とし、他者によって自己が成立するという。その他者を失った時が「わたし」の死だと。

改めて、援助者は利用者との関わりにより援助者と成り得るということであり、独りよがりの独善家とならないために常にクライアントの存在を意識しながら、自己を創造的に更新し続けようと現在進行形でいる限りにおいて援助者たり得るのかと思います。

文・副施設長 岸田 光彦

アートな対人援助関係について

**ご来苑ありがとうございます****まほろば男声合唱団**

男性ならではの迫力ある声量と、各パートが絶妙に調和した歌声を堪能するとともに、懐かしい曲やカエルなどの被り物姿でのコミカルな曲目もあり、とても楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

**音羽中学校福祉交流**

今年も音羽中学校育成学級の皆さんにお越しいただきました。学校ではこの日のために何度も練習を重ねてこられたとの事で、一生懸命歌声や得意技を披露される姿に、驚きの声や歓声が聞こえてきました。

**避難訓練を実施しました**

3月16日に避難訓練を実施しました。山科消防署の方々の指導の下、寝たきりの方を屋外に避難誘導する想定で実施しました。訓練終了後、消火器、消火用散水栓、非常放送設備等の使用方法について説明を受け、実際に使用してみました。訓練終了後の講評の中では、先日の高齢者施設での火災を踏まえ、初期消火の重要性について説明があり、迅速な初期消火とスプリンクラーの作動がとても重要であるとの事でした。当苑でも各居室、各箇所に設置済みですが、引き続き防災への意識を心がけ、より安全な環境となるよう心がけて参ります。

**◆ボランティア様 ご紹介◆**

- *デイサービスボランティア/澤 信子 様、鈴木 啓子 様
- *男声合唱団/まほろば男声合唱団の皆様
- *音羽中学校育成学級の皆様
- *歌声サークル/大西 いつ子 様
- *フロア生け花/松井 智津甫 様
- *京都大学作業療法学科(白井ゼミ)の皆様
- *3階フロアボランティア/石野 義子 様

皆様のご芳情に厚くお礼申し上げます。
今後とも山科苑へのご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。

◆実習生受け入れ◆

(2月~4月)

- *京都橘大学看護学部
- *京都福祉専門学校
- *ユウコム総合学院
- *京都女子大学家政学部 生活福祉学科

僕の随想録

私は山科苑にてリハビリ委員に関わっています。毎朝出勤すると「今日もやるで」と男性利用者に声をかけられ、歩行訓練が始まります。道中では他の職員と冗談をいったり、女性職員の前では凛々しい表情を作り、ひやかされたりと楽しそうに取り組まれています。目標は「歩けるようになったら自宅に歩いて帰ることなんや」と笑顔で話されています。

この方の訓練が終わると、次は「私もお願いしまーす」と別のご利用者から声をかけられます。この方は手すりを持ちながら立ち上がり訓練を行なわれます。訓練を続ける中で、足の力がしっかりとつき「職員さんになったらめられるよんです」とうれしそうに話されます。「ゆくゆくは車椅子からベッドに一人で移りたいんです」と今日も訓練を取り組まれています。

**■相談・苦情受付連絡先**

京都市山科区天塚野瀬町3番地

緑寿会 山科苑

(075) 593-0800

■苦情解決責任者

施設長 吉澤 英樹

■相談・苦情受付窓口

副施設長 岸田 光彦

『花咲かだより』 73号 初夏号 平成29年5月1日

発行所/社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム デイサービスセンター

居宅介護支援センター

発行担当/山科苑広報委員会

広報委員/中村里美 安富 友規 響庭恵

林布美子、中谷博己、宮前聡児